

第10回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・同推進賞受賞者

標記の賞につき、会員の皆さまよりご推薦いただいた候補のなかから選考の結果、2016年度は学会賞1件・推進賞1件の下記授賞を決定いたしました。今後とも本賞の発展にご協力くださいますよう、お願いいたします。

◆第10回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞

〔賞の概要〕

『アート・ドキュメンテーション研究』、『アート・ドキュメンテーション通信』、その他の雑誌に掲載の論文・記事、図書、データベース、展覧会、ウェブサイトのなかから優れたものを選出。会員に限らない。対象となる論文・記事、図書、展覧会は、受賞年の前年度を含む過去3年間に発表されたものとする。

受賞	<p>豊川 齋赫 氏</p> <p>『丹下健三とKENZO TANGE』および『TANGE BY TANGE 1949-1959／丹下健三が見た丹下健三』での建築家丹下健三に対する二つの対照的なアプローチに対して</p>
授賞理由	<p>豊川齋赫氏が建築家丹下健三について刊行した2冊の書物は、際立って対照的な2つのアプローチが特色である。</p> <p>インタビュー集『丹下健三とKENZO TANGE』（2013年）は、丹下の弟子や協力者49名にインタビューするという「オーラル・ヒストリー」の方法を採用する。強い個性を周辺の「群像」によって浮き彫りにすると同時に、個性を囲む環境や時代や社会への意外な見通しまでをも約束する。</p> <p>一方、『TANGE BY TANGE 1949-1959／丹下健三が見た丹下健三』（2015年）は、丹下が建築物を中心とするさまざまな被写体を撮影したフィルムを選んで構成されている。ここでも丹下自身は不在でありながら、多様な風景や対象を選んで切り取る一つの「眼」と化した個性が炙り出される仕組みである。</p> <p>どちらの書物も丹下という多面体を対象とする独自のドキュメンテーション・ワークであり、学会賞を授与するに値する業績として評価される。</p>

◆第10回野上紘子記念アート・ドキュメンテーション推進賞

〔賞の概要〕

アート・ドキュメンテーション関係業務の現場において、効果的かつオリジナリティを発揮した者、あるいは機関を選出。会員に限らない。

受賞	<p>リアス・アーク美術館</p> <p>「東日本大震災の被災生活者の観点にたつ調査記録作業とその展示活動」に対して</p>
授賞理由	<p>リアス・アーク美術館は、2011年3月11日の東日本大震災の直後より同館の立地する宮城県気仙沼市と南三陸町における被災状況の調査・記録を開始し、被災現場撮影画像約30,000点ほか膨大な資料を約2年間にわたって蓄積した。</p> <p>こうした活動は被災地各地の多くの文化施設、あるいは「文化財レスキュー事業」関連の公的機関によって実践されたが、リアス・アーク美術館は「被災者による被災者のための表現」との独自の立場から作業に取り組んだ。その「博物館＝生活者」の理念と実践、そして成果は特筆に値する。</p> <p>活動成果は、2013年4月からの同館内の常設展示「東日本大震災の記録と津波の災害史」、および国内巡回展と同展カタログに端的に示された。この活動は、現実生活の記憶と資料ドキュメンテーションとの連関、また資料分析とナラティブな展示との解釈学的接続など、博物館・美術館活動の本質を見据えつつ、ありうべき同館の近未来の発展を予示してやまない。ここに推進賞を授与する次第である。</p>

※第11回 野上紘子記念アート・ドキュメンテーション学会賞・推進賞の推薦募集は2017年1月下旬の開始予定です。
詳細は『アート・ドキュメンテーション通信』および学会のウェブサイトにて告知いたします。
会員のみなさまには、ぜひ多くの推薦をお寄せくださいますようお願い申し上げます。